

2009年5月26日

北朝鮮の核実験に厳しく抗議する(談話)

日本高等学校教職員組合

書記長 藤田 新一

北朝鮮は25日、核実験を強行した。日高教は、核兵器廃絶を求める国際世論に逆行する北朝鮮の核実験強行に対して厳しく抗議する。

これは、北朝鮮に対して「いかなる核実験または弾道ミサイルの発射もこれ以上実施しないこと」を要求した国連安保理決議1718(2006年10月14日)や、北朝鮮が「一切の核兵器および現在の核計画を放棄」すると合意した6カ国協議共同声明(2005年5月19日)にも違反する暴挙である。これ以上の核実験を行なわないこと、核兵器および核兵器開発計画を放棄すること、6カ国協議に復帰することを求めるものである。

核兵器の廃絶を求める日本をはじめとする世界の運動と世論の変化を背景に、オバマ米大統領は、「核兵器のない世界」の実現を初めて米国の国家目標にする方針を発表した。この演説を契機に、核兵器廃絶が国際政治の現実の課題にのぼり、来年開かれる核不拡散条約(NPT)再検討会議で、「核兵器廃絶を達成する核保有国の明確な約束」を議題にすることが決まっている。

今回の核実験は、いま、世界的な規模で広がりつつある核兵器廃絶にむけた新たな流れにも逆行するものである。こうした動きに対する乱暴な挑戦であり、平和への重大な逆流である。いま国際社会に求められているのは、核兵器の恐怖から人類を解放し、核兵器を廃絶するための国際交渉を開始することである。

日高教は、北朝鮮の核実験に厳しく抗議するとともに、人類の悲願である核兵器の廃絶にむけて、奮闘するものである。

以上